

補助26号線の
工事期間を延長

2025年度末までの完成は不可能からと

発行：2025.3.15

東京都が工事期日5年間延長を表明！？



特定整備路線補助26号線を考える会
連絡先：080(1106)7347 (金崎)



東京都が「防災都市づくり推進計画」において、特定整備路線の事業期間を2030年度まで延長するという方針を示しました。

そもそも特定整備路線補助26号線は、2020年のオリンピックまでに完成させるという目標で、国が事業認可していました。ここからすでに一度事業期間が5年間延長されていますが、それでもまだ事業の完成は見通せず、さらに5年間延長するというのです。26号線は「事業計画の取り消し」を求めて裁判を行ったことから、地域住民の事業への理解が得られていないことは明白で、用地取得など、今後も事業遂行には困難が予想されます。

5年前にも2025年までに全線完成させるという事業期間の延長が行われ、その実現が見通せなくなったから、さらに5年延伸の提案をする前に、なぜできなかったのか、なぜできなかったのか、東京都は検証すべきではないでしょうか。

5年延ばせばできるという保障はありません。特定整備路線補助第26号線については、期間の問題ではなく、地域の理解が得られないことが土地を確保できない一番の問題です。このことを考慮することなく事業期間の再延長をすることは、かえって地域を苦しめ

るだけではないでしょうか。

東京都は建設局管轄の特定整備路線については、今年度より「機動用地取得推進課」を設置して強制収用への動きを強めています。板橋の26号線は都市整備局管轄で、今のところ同じような計画を進めようとはしていませんが、3年半ぶりに都市整備局の市街地整備事務所の職員が地権者宅を訪問するなど、今までにない動きを見せていますが、この計画が地域住民の理解を得ていないことは明らかです。

この間の裁判闘争における高等裁判所判決で「地域住民、商店街への影響」が認められ、26号線により地域が変容を迫られることが避けられない状態であることを明らかにされました。引き続き大山ハッピーロード商店街の分断を許さない、地域経済の損失、また環境問題など、多岐にわたりまちこわし、暮らしと商売を壊す計画を許さない運動を続けていきたいと思っています。



3月3日締め切りで東京都はこの計画延長などの方針について「パブリックコメント」を実施していましたが、地域住民にはそのこと知らされていませんでした。

改めて…、26号線の計画がどう
やって出てきたのかを振りかえっ
てみました。

埼玉の道路陥没のこともあるし、
千川が暗渠で26号線の計画道路近
くを通ってるのが気になります。



そもそも大山のまちづくりは昭和56年ごろ、大山
地区の再開発事業などにより補助26号線も一体と
なって整備していく計画が示されてきました。しか
し、それ以前は昭和21年に戦災復興計画として16
本の道路を都市計画決定していましたが、その中の
一本がこの補助26号線でした。

これまでハッピーロードを分断する道路計画に対す
る反対運動が補助26号線の整備を止めてきました。
平成3年にも補助26号線が計画に位置づけられまし
たが反対運動が再燃し、また中断状況に。そして平成
21年6月に立ち上がった「大山周辺地区まちづくり
協議会」が「マスタープラン」を作成し平成25年3
月に区長へ提出。区はそのプランを受けて昨年度「大
山まちづくり総合計画」を作成し、今年の3月に発表
したばかりでした。その直後の4月1日、いきなり補
助26号線を特定整備路線として2020年度までに整
備する計画が東京都より示されてきました。それが
2025年、そして今度は2030年？

補助26号線のこれまでの経緯

昭和21年 補助26号線が東京区部の166計画路線の一つとして都市計画決定される。

昭和41年 東上線立体化（地下化）の要望が地元から出始める

昭和47年 東上線立体化と補助26号線を一体的に整備する計画が東京都から発表される。
反対運動がおこる。

昭和53年 東京都の都市計画道路再検討の中で、補助26号が事業化路線の対象にあげられる。

昭和55年 補助26号線建設反対運動が再び起こる。（廃案を要望）

昭和56年 都市計画道路再検討がまとめられ、大山地区は再開発事業などの面的手法により、
補助26号線整備を実現していくものとされる。

再検討の結果、事業化計画が定められたが、補助26号線については第1次事業化路
線に位置づけられなかった。

昭和62年 区議会で東上線立体化促進調査特別委員会及び東上線立体化研究会が発足。

平成2年 大山地区を再開発誘導地区に指定。

平成3年 補助26号線が第2次事業計画に位置づけられた。反対運動が再燃。

平成25年3月 まちづくり協議会が作成したマスタープランには、26号線が不燃化特区事業
で特定整備路線にという話はまだ何もなかった。

平成25年11月4日・5日 補助26号線と沿道のまちづくりに関する事業概要・現況測量説明会

平成26年2月 大山駅周辺西地区が「不燃化推進特定整備地区」にあがってくる。

平成26年3月 区の作成した大山まちづくり総合計画には、延焼遮断帯としての26号線整
備が明記されたが、特定整備路線の言葉は一言あるのみ。

平成26年4月1日 突然東京都より4月1日付で、「木密地域不燃化10年プロジェクト」の不燃
化推進特定整備地区の指定および整備プログラムが認定される。

平成26年5月11日・12日 補助26号線現況測量図面の閲覧会開催

6月20日・21日 補助26号線の用地測量説明会開催